

キューバ、四苦八苦する稲作

最近キューバの報道で、稲作で四苦八苦しているニュースが目にとまりました。「え？キューバは、ソ連の崩壊のあと、全国に有機農業を展開し、食料危機を切り抜けたのでは？」と思う人は、このニュースをどう受け止めるでしょうか。

最近でも、こういう本が出ています。番号は筆者が付けたものです。

「(1)キューバは、全力を挙げて再生可能な資源からエネルギーを作ろうとした。地方の学校では太陽光からエネルギーを得た。近年では、全国的な地図を作成し、風車を回し続けている。・・・

(2)キューバ方式の緑の革命の中でも重要なのが農業である。石油が必要な動力や科学肥料を使わない有機農業へと、大規模な転換を進めたのである。・・・

(3)1990年代にキューバの首都ハバナを訪れた人は、街中で農作業の人々を見かけた。今日では、建物の屋根やわずかな空き地でも農作物を育てている。(4)こうしてハバナでは果物と野菜のほとんどを自給しており、人々を飢餓から救うことができた」(デレク・ウォール『緑の政治ガイドブック』白井和宏訳(ちくま新書、2012年)。

どこかで、読んだような熱っぽい文章と内容です。(1)は、一部で対処療法的に行われていることで、農・山村の一般的な風景とはなっていませんし、キューバの発電量の90%は石化燃料であり、今年1月からは、キューバ政府は、大きな期待をもってメキシコ湾で深海油田の開発を開始したところです(「グランマ紙」2012年1月20日付)。環境問題は重視しますが、利用できるものは利用して、経済発展を遂げるという現実的な立場に、途上国は立たざるを得ないのです。



ハバナ沖に停泊中のリガー

(2)については、そういうことを報告した政府発表の論文も、党大会決議も、新聞報道もありません。また、全国統計局の統計でもそのことを示す統計はありません。(3)については、筆者は、1990年代毎年ほぼ半年程度ハバナ市に住んでいましたが、まれに空き地に散発的に野菜を栽培しているのを見ました。しかし、全面的に行われているというほどのものではありませんでした。都市農業を推進するキャンペーンもありませんでした。したがって(4)については、我田引水の結論ですが、キューバ人は野菜を食べる習慣があまりなく、果物は街中でほとんど売られていませんでした。あるいは万一販売していたとしても、果物と野菜で飢餓を逃れられるでしょうか。一面的な論理でしょう。

さて、グランマ紙の記事ですが、このように報道しています。

「緊急に食料の輸入を減らすために、ピナル・デル・リオでは、大規模なベトナムの稲作技術を適用し始めた。それは、反収を増大することである。4400ヘクタールで国営農場と、4つの協同組合農場によって稲作が行われている。従来は、反収(1畝当たり)は冬作で4トン、春作で3トンであったが、現在では6トンをめざしている。ベトナム式

技術とは、農業資材の豊富な投入、水の管理である。それによると資材を投入すればするほど、反収も増えるというもの。現在農民は、これまでの倍の尿素と除草剤、殺菌剤、肥料（これらはいずれも化学製品）を受け取っている。

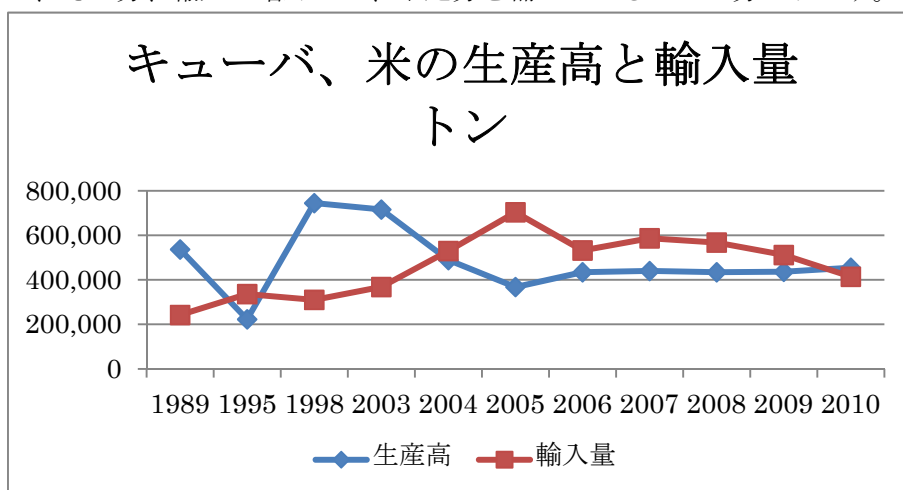
したがって、困難な条件でも反収は5トンを挙げたので、今はもっと反収を増やさなければならない。そのためには、時機を失せず資材を投入する必要がある、それには契約している各公団が契約を厳密に履行しなければならない。しかし、実際には、計画は実行されず、反収の増大は難しくなっている。農民のダゴベルト・ペレスは、播種し、12



日前に施肥したけれども、一月経っても、国营稲作公団から灌漑の水を供給してもらっていない。また、前年度のように収穫コンバインが不足して、収穫が遅れないかと心配している」。

というのですが、ここには、稲作の増産のために有機農法はまったく問題にもされていません。しかも、化学農薬、化学肥料でも、増産に役立つものは、何でも利用するという現実的な方法が述べられています。そして、反収を従来の4トンから6トン一気に50%も増大することに、筆者は、その可能性を危惧しています。キューバによくある現実を無視した期待数値の発表ではないでしょうか。また、灌漑、収穫機械などの使用契約が、期日通りすべて履行されるかという点、キューバの資材の制約、契約の履行のインセンティブの不足、選択オプションの不在などから、これも疑問に感じられます。なお、稲作地帯は、ピナル・デル・リオ県、マヤベケ県、グランマ県が主要な産地で、いずれも世界的にいう都市農業（＝有機農業ではありません）の範疇には入りません。

参考までに、米の生産高と輸入量の統計を掲載しておきますが、米の生産高は、近年低迷し、その分、輸入が増加して、不足分を補っていることが分かります。



出所：Oficina Nacional de Estadísticas, *Anuario Estadístico de Cuba*, La Habana.の各年。

(2012年2月26日 新藤通弘)